



「旬の法話」が大切

中島氏 葬儀事情を講義

推進會

9月16日開催の推進會では、極楽堂はなや代表取締役社長である中島浩盟氏を講師に迎え、昨今の葬儀事情について、葬儀を通じて驚かされたことの一例を挙げ次のようにお話いただいた。

宗の御本尊を掛け、枕飾りや蠟燭・線香を揃えた。すると、喪主が突然「無宗教で行いたい」と言われた。準備を終えたところでの唐突な申し出に戸惑いながら、それに対し「無宗教で執り行うということは、蠟燭も線香も何も必要ないのですよ」と答えると「それでは格

好が悪いから、蠟燭・線香ぐらいは用意してほしい」と言われる。併せて「お参りに来られた人には、お焼香をしてもらわなくてもよろしいのですね」と尋ねると「形だけでも」とのことであった。自宅に仏壇があるにも関わら



ず、家の宗教など全く関係なく執り行われている最近の葬儀。これが宗教離れの実態である。

氏は最後に「故人との最後のお別れの場面だからこそ、僧侶の方には法話を大切にしてもらいたいと思います。特に故人の生前の職業など関係する話を用いれば、参列者は真剣に法話を聞きます。難しい話ではなく旬な話が大切です」と述べられ、我々職員には厳しい提言となった。